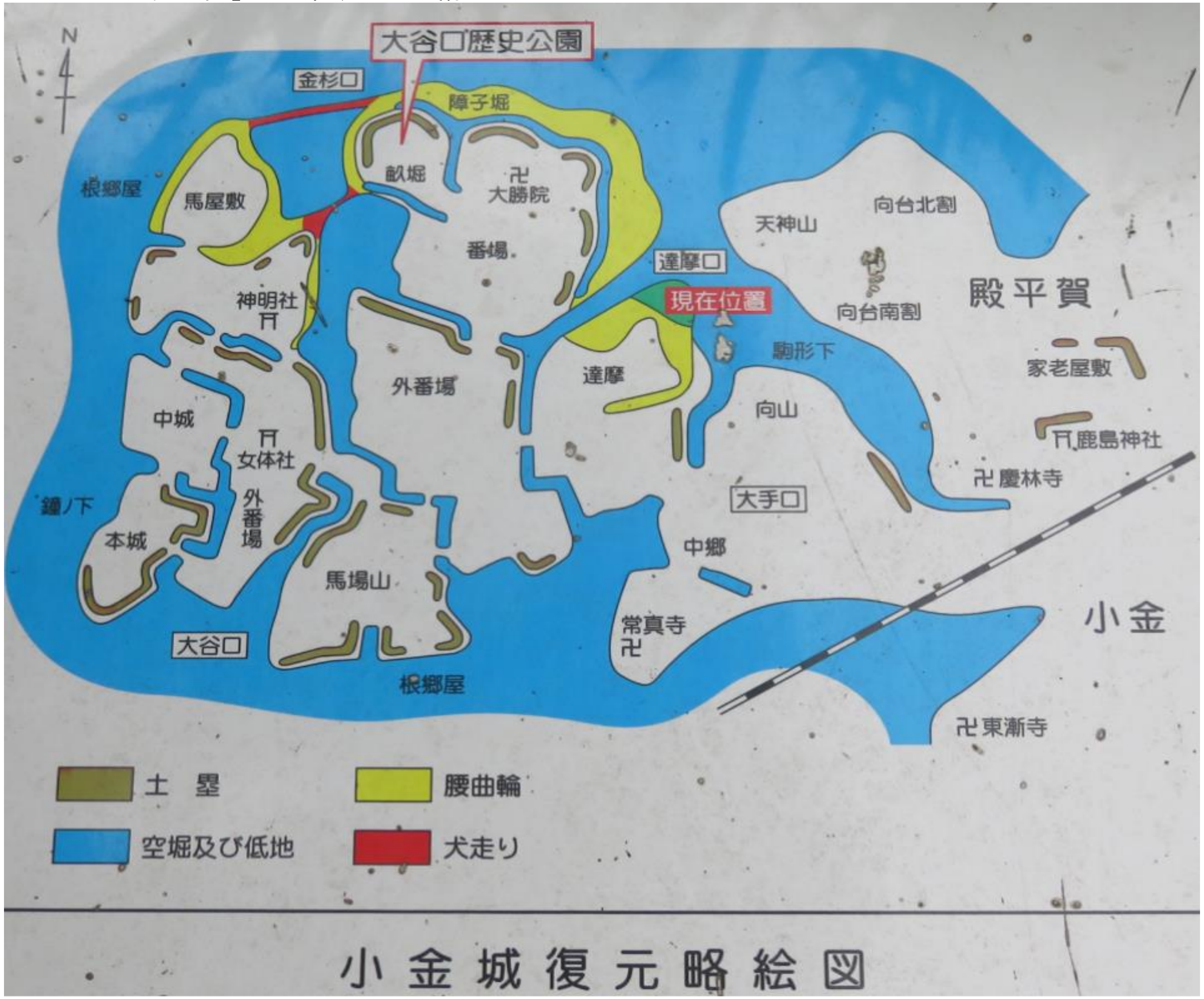
小金城跡（松戸市）

築城年代：天文6年（1537年）、築城者：高城胤吉

前方が流鉄流山線の小金城址駅ブリッジから見た小金城跡のエリア/この地の豪族で、千葉氏の一族から出た高城氏の居城で、戦国時代の下総地方を代表する巨城であったと云う

小金城跡縄張図/小金城址駅はこの北西側にある/高城氏は、近くの根木内城から本拠地を移し、ここに小金城を築き、東葛地方一帯を支配していたと云う/現在はそのほとんどが宅地化されてしまい、馬場曲輪の一部のみが「大谷口歴史公園」としてわずかに整備されている



小金城址駅から大谷口歴史公園に向かうと、「馬屋敷」があった所が公園として整備されていた

「大谷口馬屋敷緑地」とある

こんな塩梅

左手を見ると土塁の名残があった

右手を見たところ/この上部に城域が展開していたようだ

反対側から土塁を見たところ

その土塁に登ってみたところ

大谷口歴史公園側から振り返って大谷口馬屋敷緑地を見たところ/この周辺には根郷谷（根小屋・根古屋）であったようだ

さて、前方の木々の辺りが大谷口歴史公園のようだ

この辺りが金杉口

右手を見ると石碑が立っている

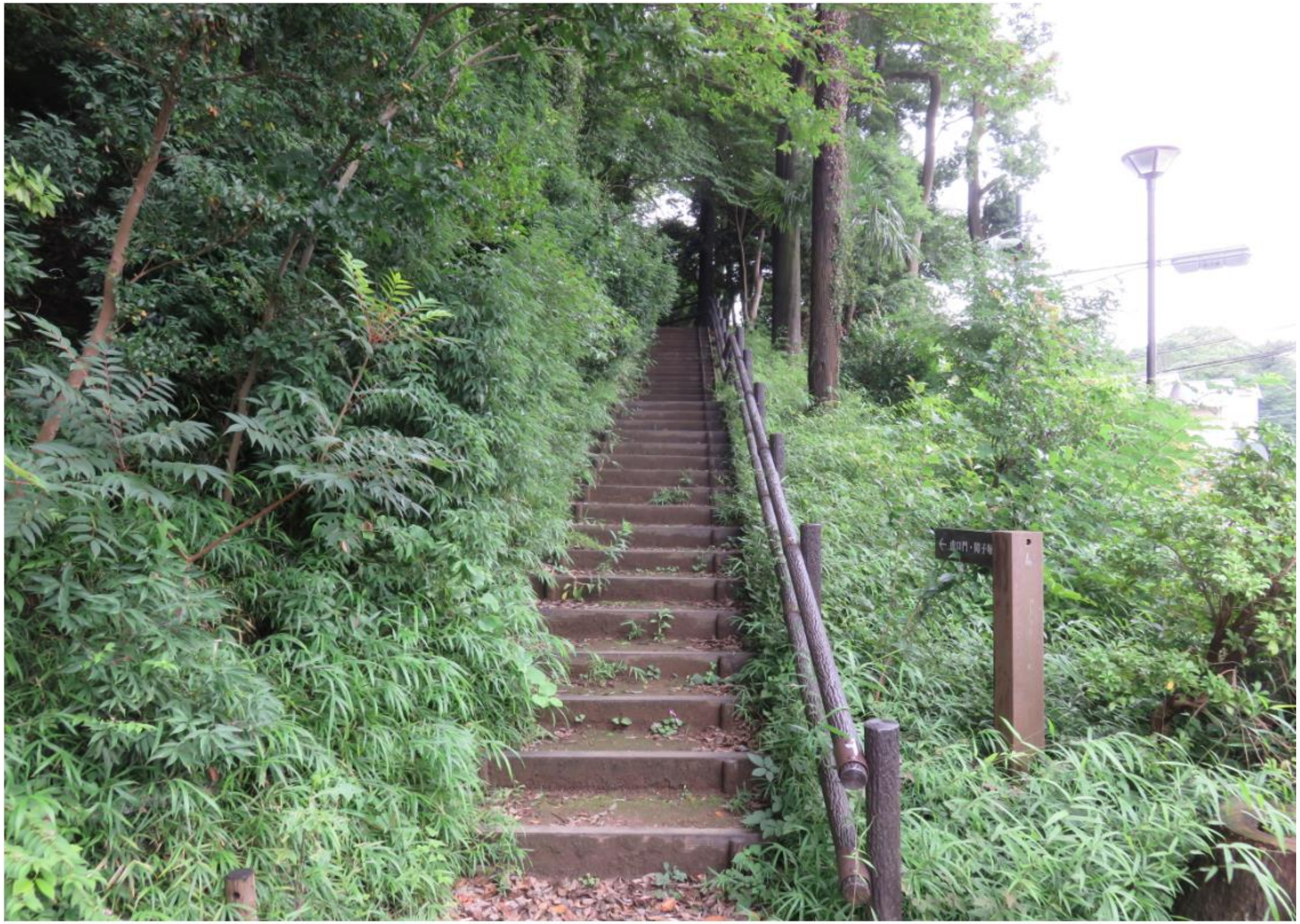
こんな塩梅

アップで見たところ

小金城跡の保存に功績のあった方の顕彰碑のようだ

兜を戴いた石碑で､｢三日月 上向き 家紋｣は”千葉氏”らしい

その左手にある階段/ここから虎口門へ行けるようだ



ここはさらに左手にある公園のトイレがあるスペース

説明板が立っている/前方の階段を登ると障子堀があるようだ

N
大
うね
畝堀
休憩所
(旧金杉口)
土塁
こぐち
虎口門
障子堀
便所
現在地

ここは右手の方にある旧金杉口/ここからも虎口門へ行けるようだ

旧金杉口を登る

前方に何やら立っている

これが金杉口と呼ばれる北側の虎口（城郭の出入口）に立つ門/冠木門形式で復元されている

金杉口跡

ここは金杉口と呼ばれる小金城の虎口（出入口）の一つです。小金城には大手口（東）、達摩口（北東）、金杉口（北）、大谷口（南）の四つの虎口があったとされています。

　西側の低地から城内へ入ると正面と南側は高い急斜面にあたり北へ進むことになります。

ここには、三段（推定）の階段を持ち、最上段には門柱を立てたと思われる土壇（砂を突き固めた、径約六十センチ～一メートル、高さ約十センチ）が四ヵ所見つかりましたが、その構造までは解りません。奥に広がる広場は斜面部に土を盛って人工的に造った広場です。さらに奥へ進むと空堀があります。堀の外側を進んで行き、大勝院の裏手から城内へ入ったものと推定されています。

金杉口跡復原図（田中祥彦氏作図）

松戸市
松戸市教育委員会
平成九年四月

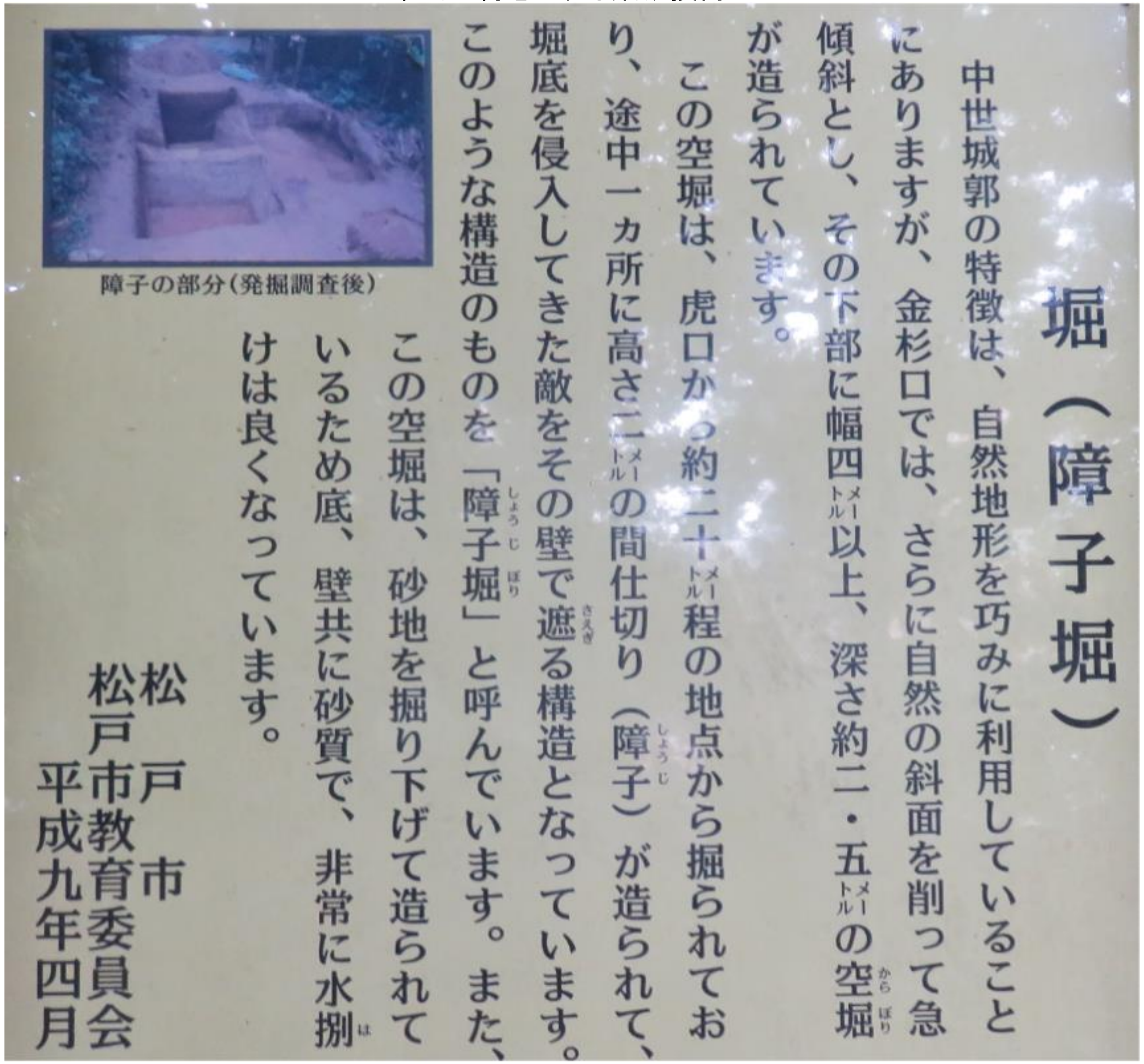
金杉口跡復原図（田中祥彦氏作図）

これが人工的に造られた広場（平場）

その先には右手の上部にある郭へ登る階段がある/前方には障子堀があるようだ

正面が障子堀のようだ/説明板が立っている

北条氏が得意とする築城技術の一つ



障子の部分（発掘調査後）

これが障子堀だが、土や植物で埋まっていて良く分からない

反対側から見たところ

障子堀越しに上部にある郭を見たところ

さて、その上部にある郭に登ってみよう

ここがその郭

そこで右手の土塁を見たところ

これはその土塁上から、先程の虎口門を入った平場を見下ろしたところ

土塁を側面から見たところ/それほど高くは築かれていない(身を隠す程度か)

郭から登ってきた階段方向を見たところ

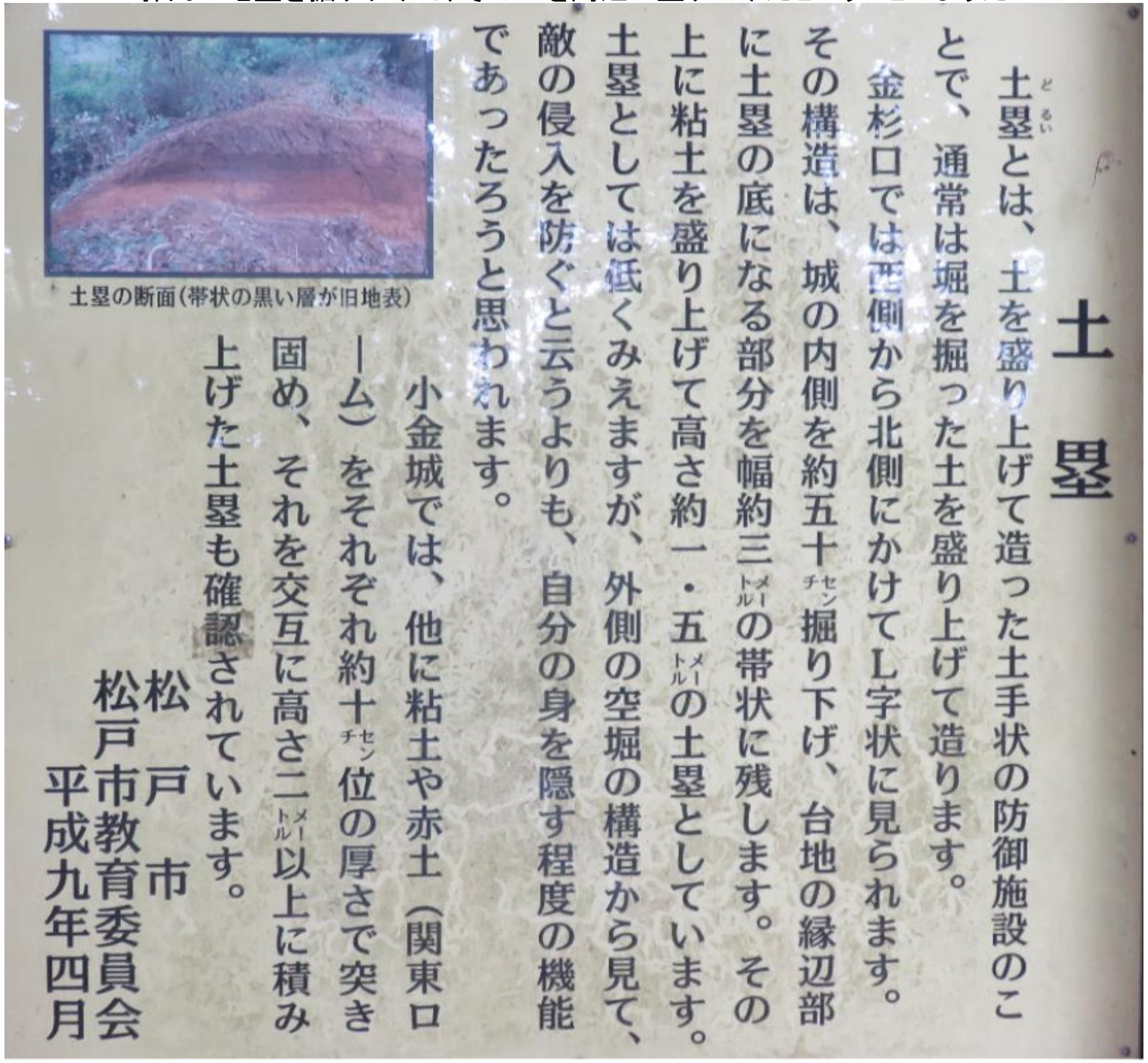
階段の右手も、こんな塩梅

その先はここで土塁が無くなってしまっている/この更に先は住宅地として開発されていて、破壊されてしまったようだ

そこから先程の障子堀を見下ろしたところ/郭を攻める敵は、下の障子堀を越えて登って来なければならないが、そこを郭の土塁の陰から狙われることとなる　　　　（クリックしてビデオを見る）

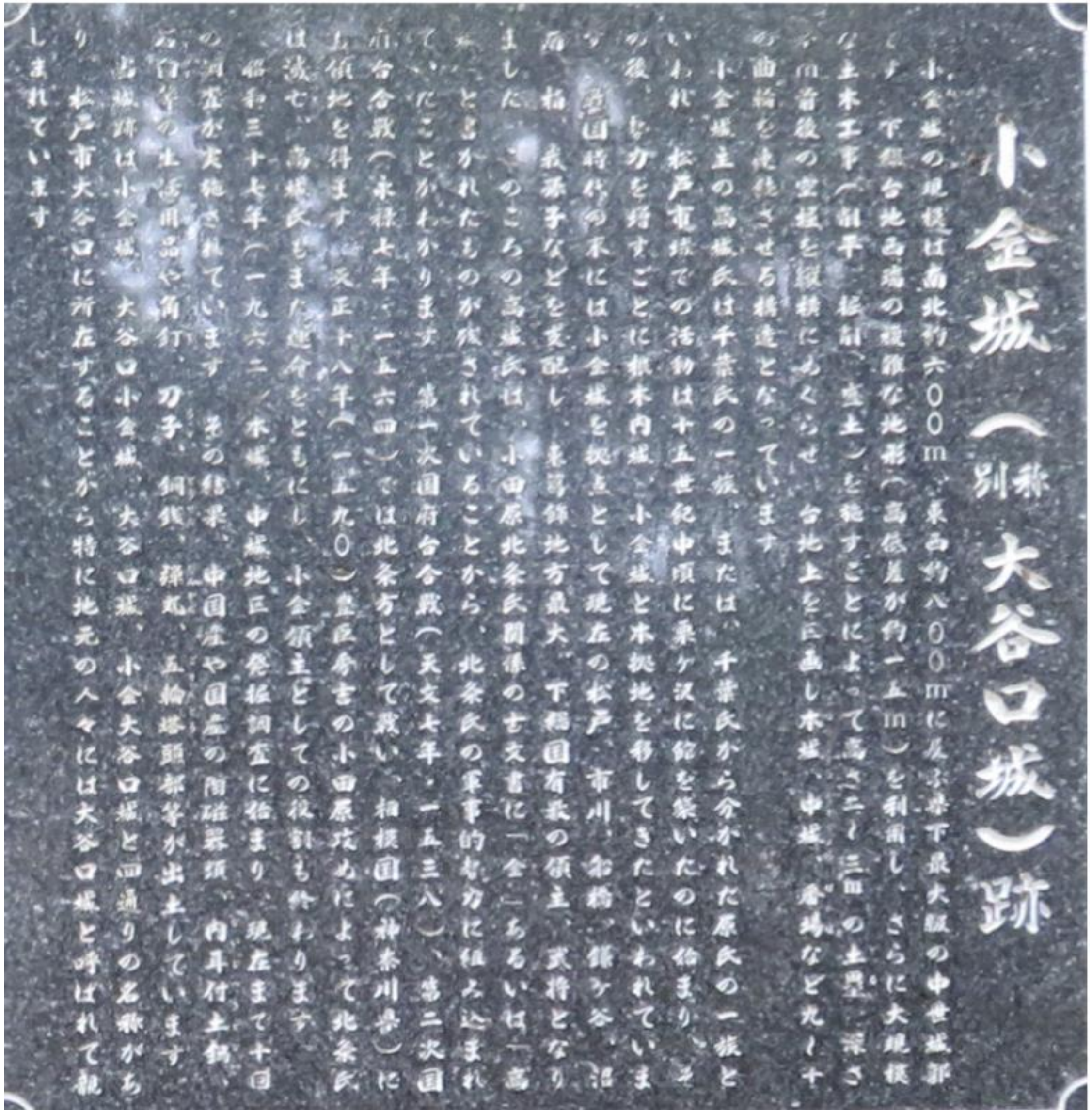
説明板や石碑が立っている

郭内の地盤を掘り下げて、その土を周辺に盛り上げたということのようだ



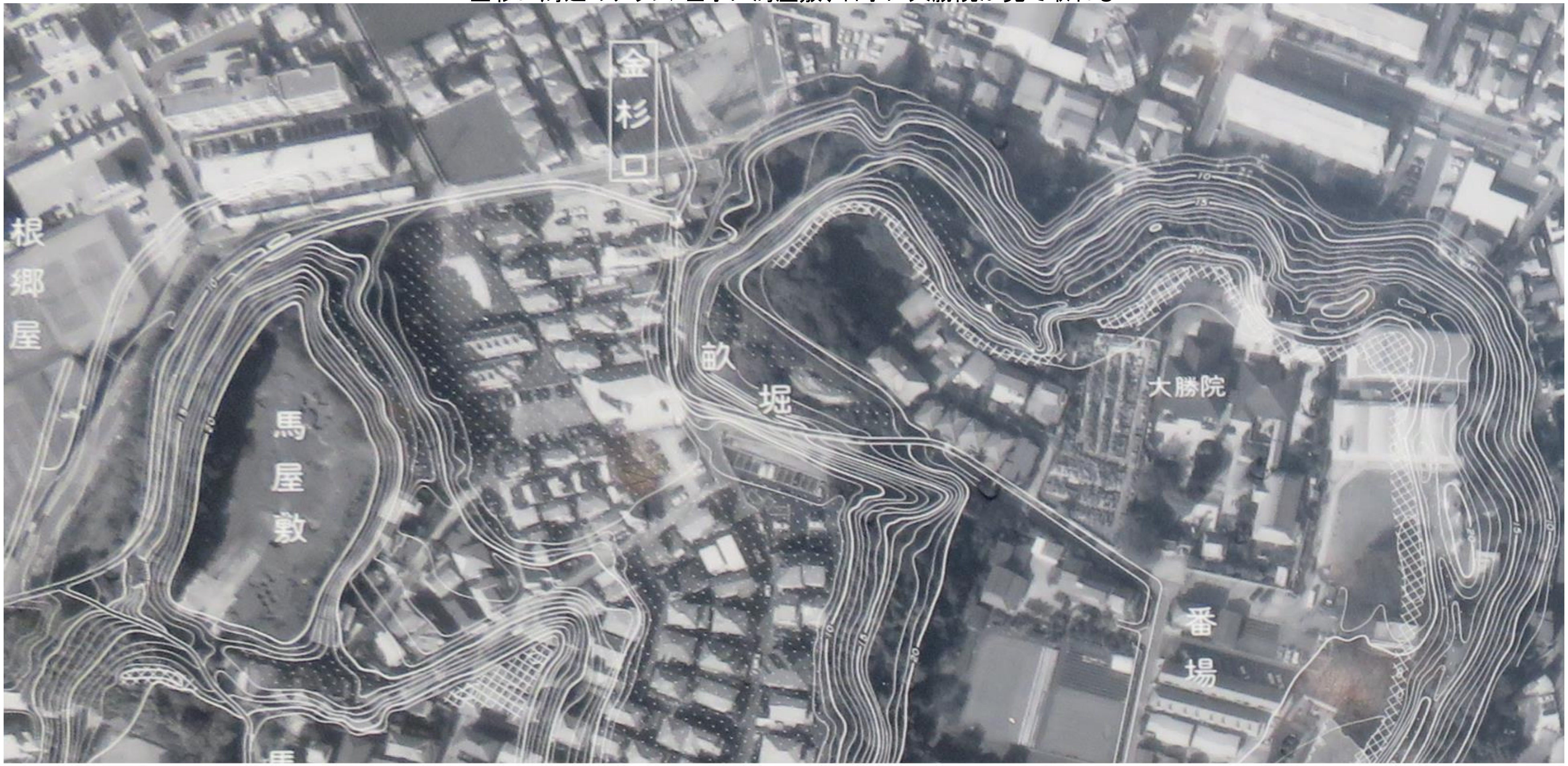
土塁の断面(帯状の黒い層が旧地表)

小金城主の高城氏は千葉氏または分家の原氏の一族と云われ、松戸市域の活動は15世紀
中頃に栗ヶ沢に館を築いたのに始まり根木内城、小金城と本拠地を移してきたと記されている



上空から見た小金城跡/北条氏の軍事的勢力に組み込まれており、1590年(天正18年)に豊臣秀吉の小田原攻めによって共に滅亡したと云う

金杉口周辺のアップ/左手に馬屋敷、右手に大勝院が見て取れる

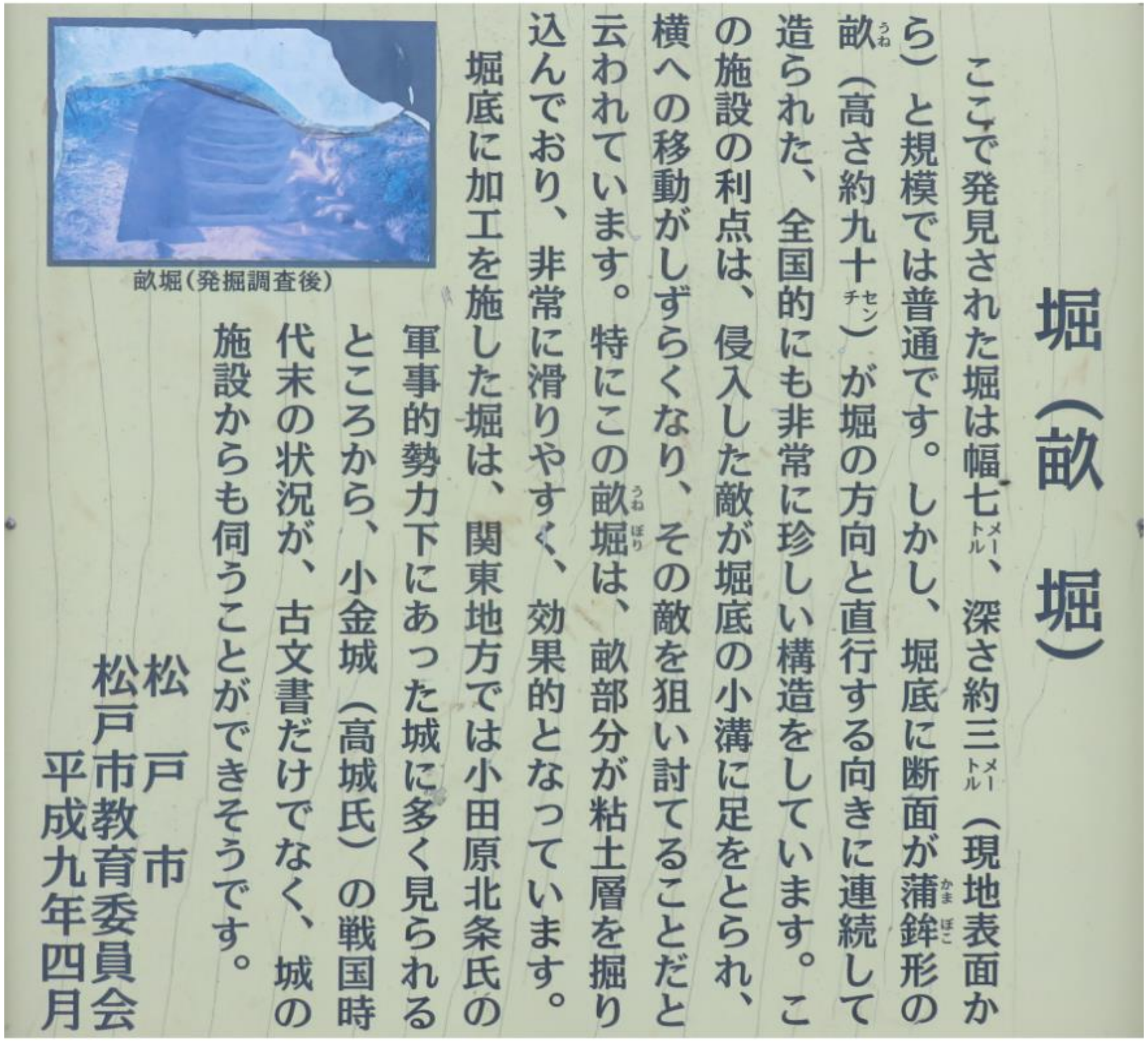


さて、こちらは郭の南側斜面下の平場

階段を下りて右手を見たところ

正面が畝堀/右手に説明板が立っている

これも北条氏が得意とする築城技術の一つ



畝堀（発掘調査後）

これが畝堀

アップで見たところ/土で埋まっていて良く分からない

畝堀越しに上部にある郭を見たところ

さて、これは階段を下りた左手の方向を見たところ

この先は住宅地となっているようだ

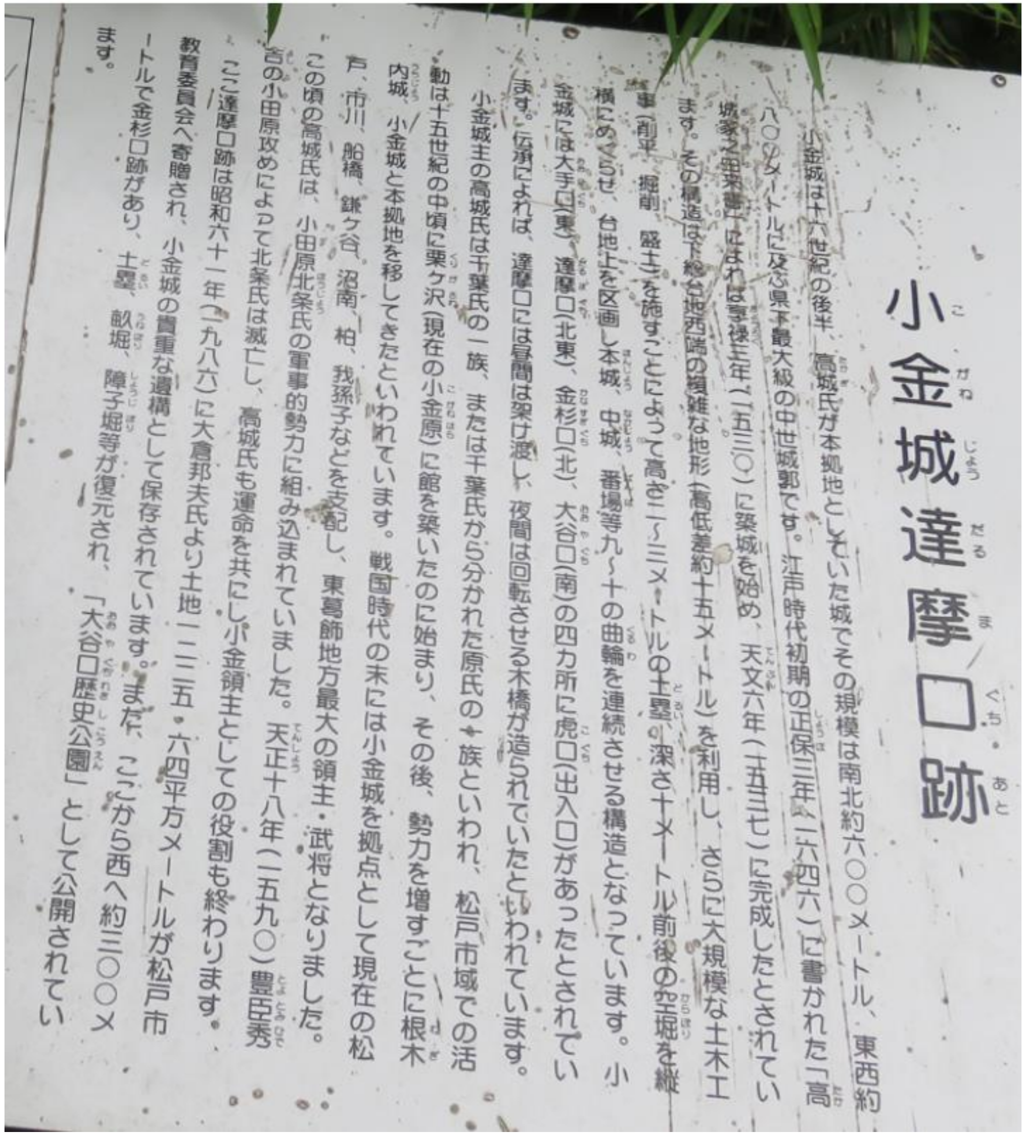
さて、正面は大勝院の南東に所在する達磨口跡に残る土塁

左手に標柱と説明板が見える

北東側の達磨口

N
大谷口歴史公園
金杉口
障子堀
馬屋敷
根郷屋
馸堀
卍
大勝院
番場
達摩口
現在位置
天神山
向台北割
向台南割
殿平賀
神明社
駒形下
家老屋敷
達摩
外番場
向山
中城
女体社
鹿島神社
卍慶林寺
大手口
鐘ノ下
外
番
場
本城
中郷
馬場山
常真寺
卍
小金
大谷口
根郷屋
卍東漸寺

昼間は架け渡し、夜は回転させる木橋が造られていたと記されている



振り返ると、前方は天神山のエリアか・・・/その手前の低地は堀跡と云うことのようだ

さて、達磨口跡に僅かに残る虎口遺構へ進もう

こんな塩梅

両サイドに土塁

左手の土塁を見たところ

右手の土塁を見たところ

その土塁に登ってみたところ

虎口の遺構を見たところ

そこで右手を見たところ

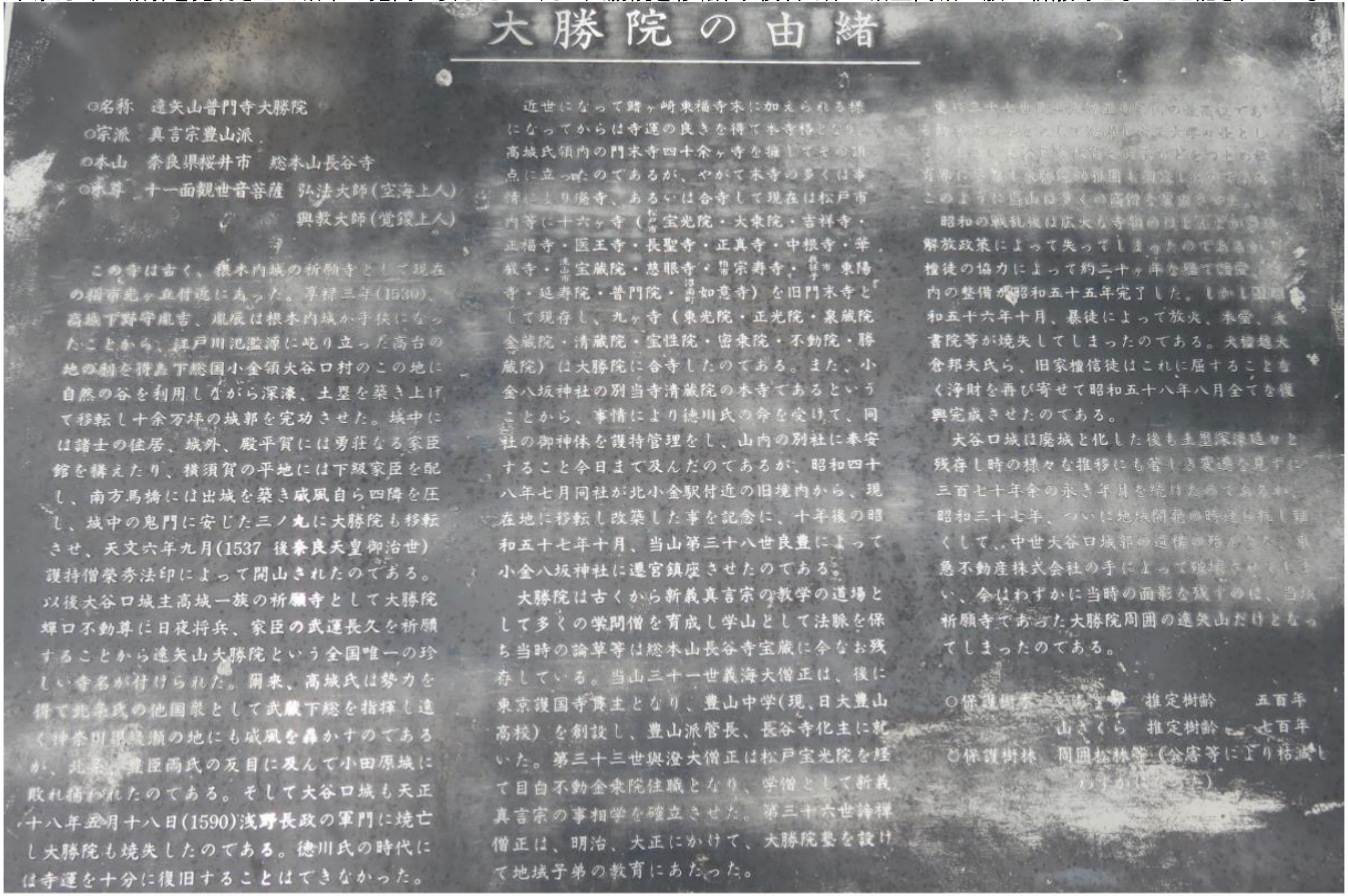
同じく左手を見たところ

これは左手の土塁が南方向に続いている部分を見たところ/右手前方が虎口遺構のあった場所/この左手で土塁は破壊されている

さて、大勝院へ行ってみよう

ここが大勝院/大きな立派な寺院だ

古くは根木内城の祈願所であったが、根木内城が手狭になったことから、この地に自然の谷を利用しながら深濠・土塁を築き上げて移転し、十余万坪の城郭を完功させて城中の鬼門に安じた三ノ丸に大勝院を移転、以後、大谷口城主高城一族の祈願寺となったと記されている



山門から境内を見たところ

本堂/昭和58年(1983年)の再建

さて、この辺りは東側の「大手口」であったと思われるエリア

反対側から見たところ/遺構は残っていない

さて、こちらは南側の「大谷口」

左下が「大谷口」

N
大谷口歴史公園
金杉口
障子堀
根郷屋
馬屋敷
畝堀
卍
大勝院
番場
達摩口
現在位置
天神山
向台北割
向台南割
殿平賀
神明社
駒形下
家老屋敷
外番場
達摩
向山
中城
女体社
鹿島神社
卍 慶林寺
大手口
鐘ノ下
外番場
本城
馬場山
中郷
常真寺
卍
小金
大谷口
根郷屋
卍 東漸寺

前方が「馬場山」

その左手を見たところ/「外番場」方向か・・・

この付近は至る所に「大谷口」の名が残る

さて、正面は「神明社」へ向かう道すがらにある説明板と石碑

こんな塩梅

小金城跡

戦国時代の豪族で、東葛地方に勢力のあった高城氏の居城跡です。城の完成は天文六年（一五三七）とされています。自然地形を巧みに利用した、県下でも有数の規模をもつ城郭です。高城氏は、天正十八年（一五九〇）豊臣秀吉による小田原攻めの際、北条方に加わったため小金城も秀吉方の武将浅野長政の軍に攻められ落城します。

現在は城のある台地上も宅地化が進み、往時の姿を思い浮かべることも困難になりましたが、大勝院の西側にある大谷口歴史公園内に土塁、空堀（畝堀、障子堀）などの遺構を一部復元し、公開しています。

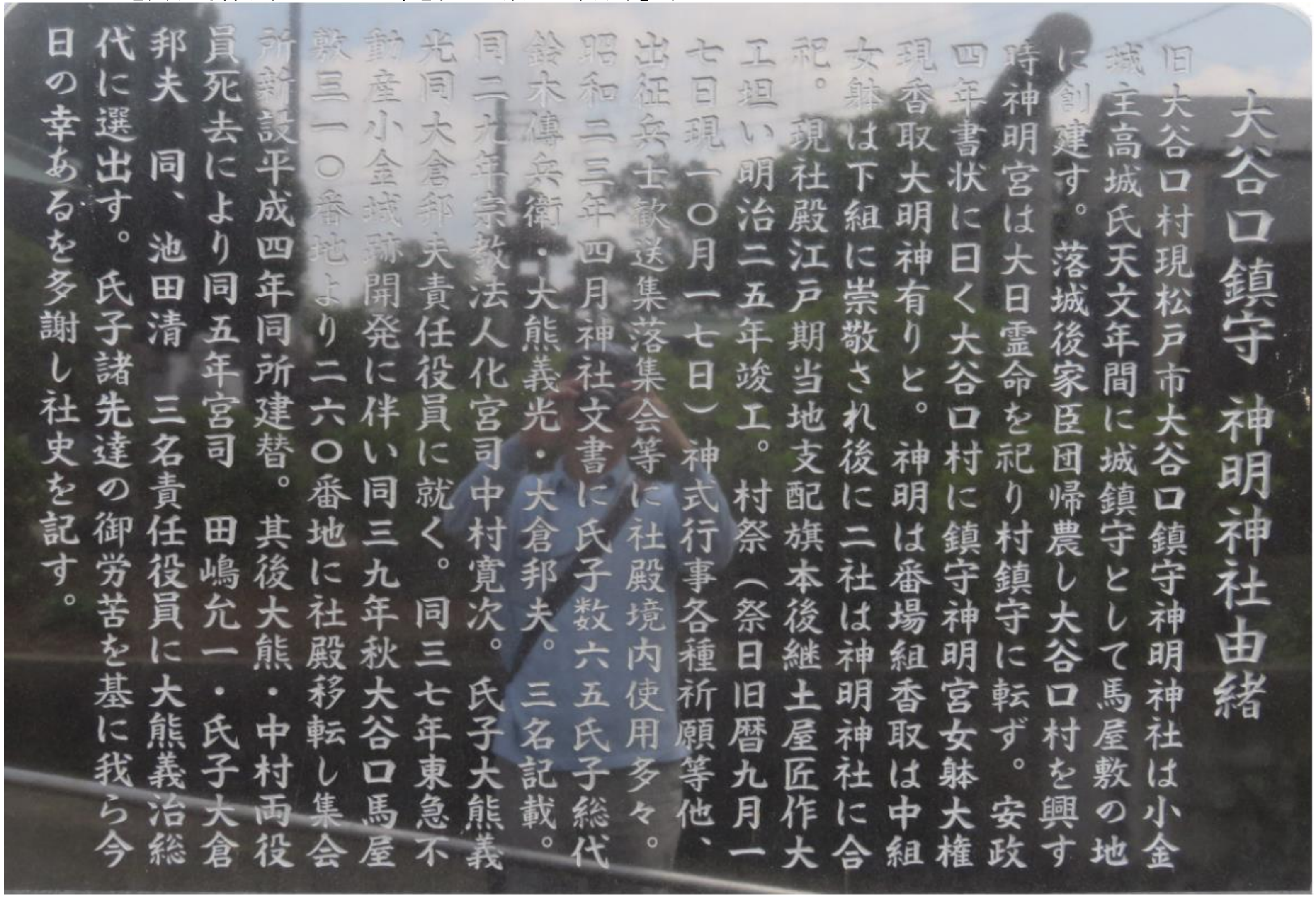
平成一〇年三月

松戸市教育委員会

「小金大谷口城跡」と刻まれた石碑

さて、ここが「神明社」（神明神社）

「旧大谷口村現松戸市大谷口鎮守神明神社は小金城主高城氏天文年間に城鎮守として馬屋敷の地に創建す。落城後家臣団帰農し大谷口村を興す時神明宮は大日霊命を祀り村鎮守に転ず。」と記されている

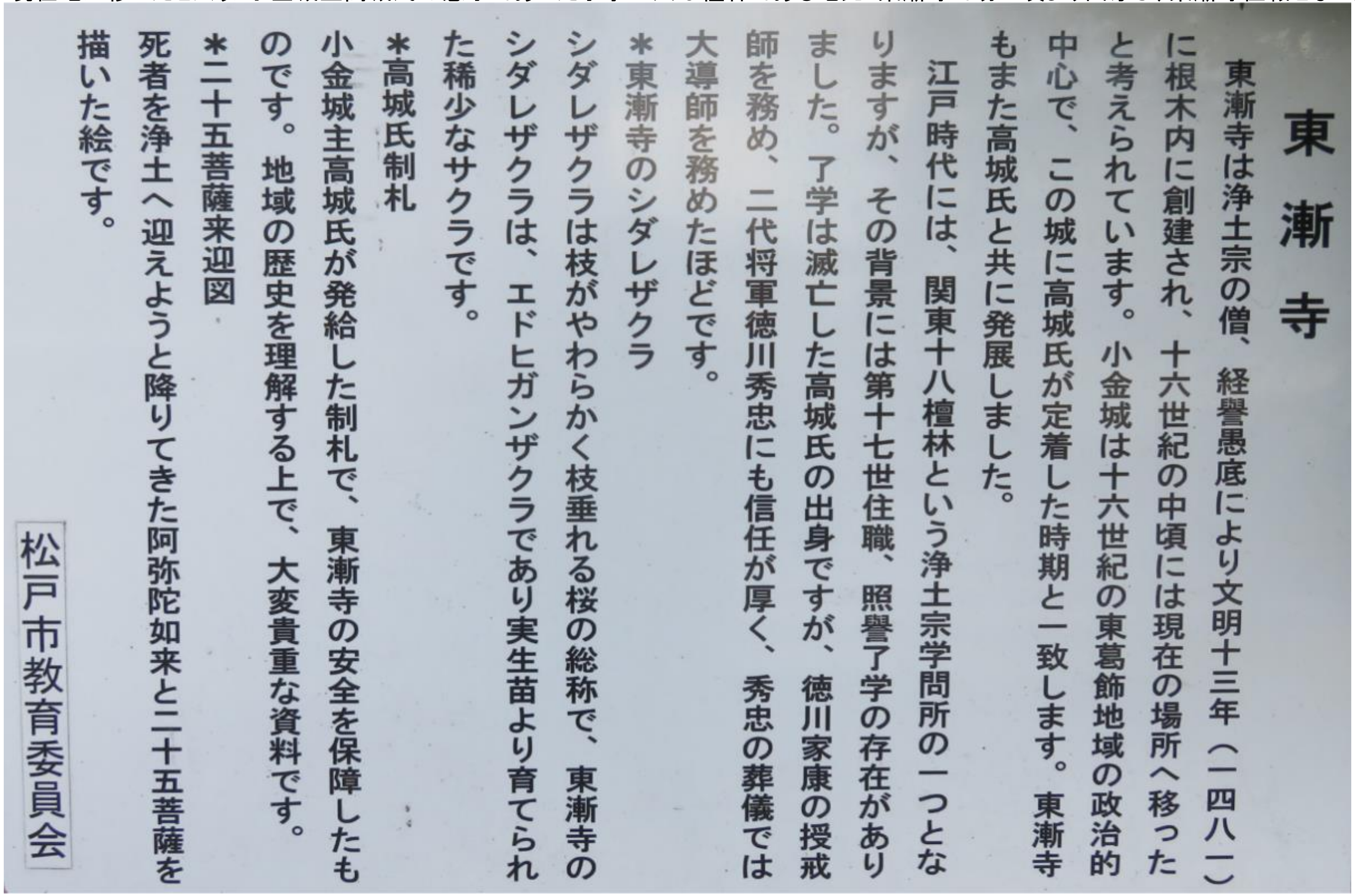


周囲の坂下から神明神社の地を見上げたところ

庚申塔を使用した石垣風になっている高まりは土塁の名残とも云うが・・・

さて、ここは城域の南東に所在する東漸寺/ここも大きな立派な寺院だ

寺伝では開創された根木内の地が狭少でかつ堂宇もいたく破損していたので、当時小金の城主であった高城氏の勧めで根木内から現在地に移ったと云う/小金城主高城氏の息子であった了学上人は檀林である地元・東漸寺で幼い頃より出家し、東漸寺住職となった



総門を潜ると左右に土塁の名残のようなマウンドがあった

山門/仁王門

中雀門

本堂

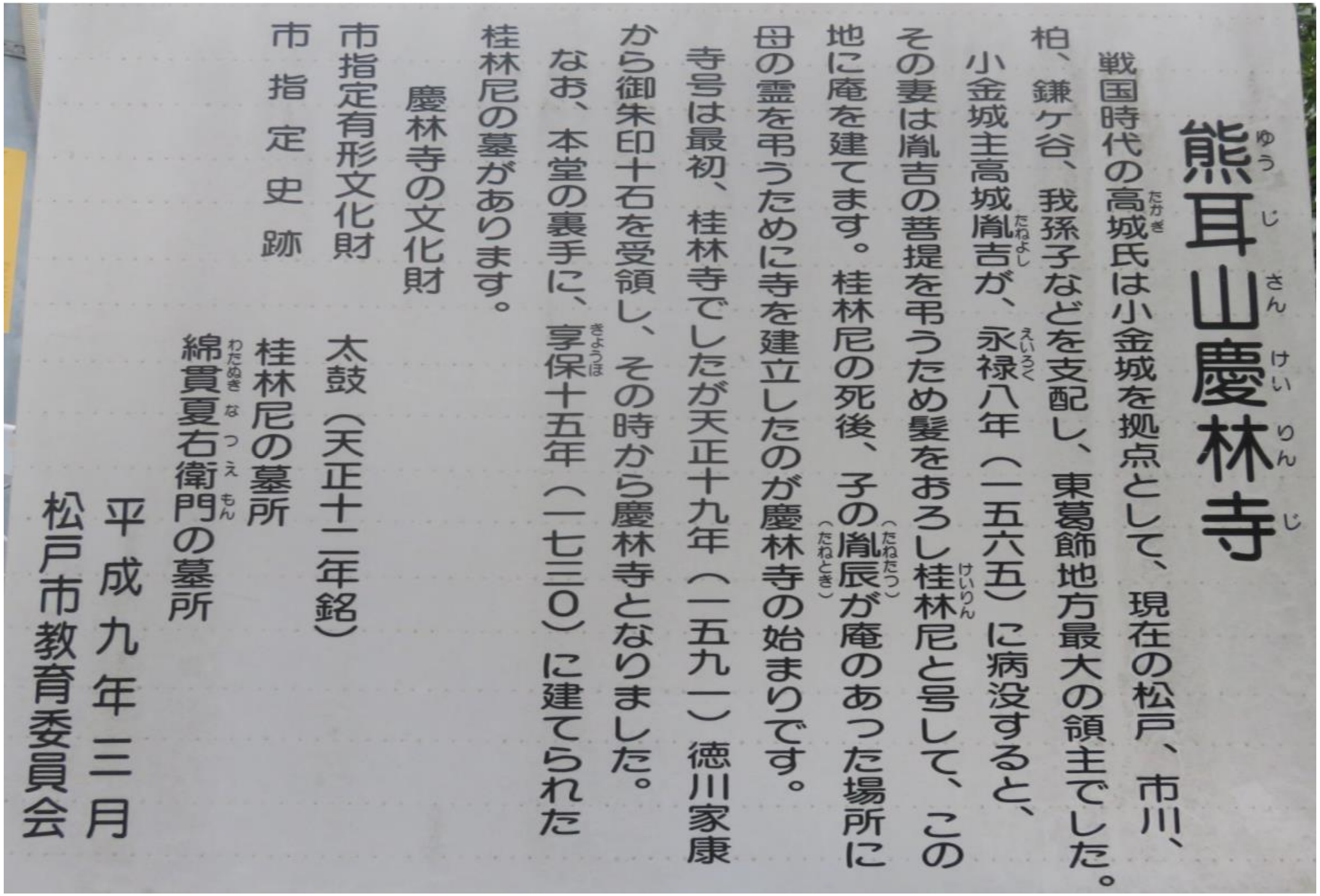
本堂の左手前には観音堂が建つ

鐘楼

これは北小金駅北口近くに立つ小金宿の説明板/千葉県で最も歴史のある街の一つとして知られる旧水戸街道の小金宿は、この東漸寺を中心に形成されていたと云う

さて、ここは大手口の東側に所在する慶林寺

小金城主高城胤辰が母の霊を弔うために建立したのが始まりと云う



當山（慶林寺）の由来

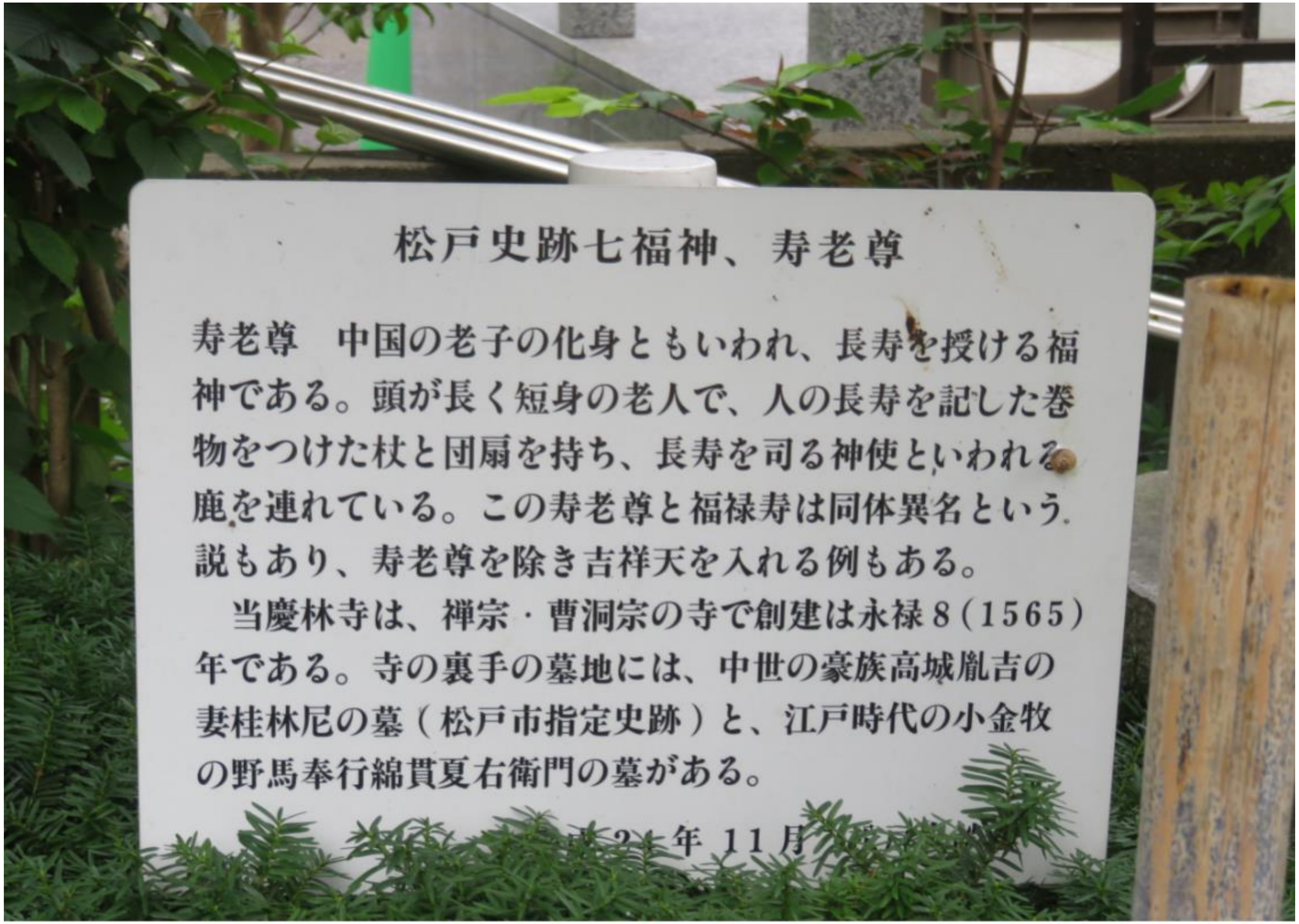
名称	曹洞宗（禅宗）慶林寺
曹洞宗	今から八百年ほど前に、高祖道元禅師様が我が国に開かれ、四代目の太祖瑩山禅師様が盛んになされました。このお二方は、宗門の父母にも当たるお方ですから、両祖大師と申し上げます。
両大本山	福井の永平寺（道元禅師様御創立） 鶴見の總持寺（瑩山禅師様御創立）
開創	永禄八年（西暦一五六五年）
御本尊	大福薬師瑠璃光如来（座像）
山号	熊耳山（ゆうじざん）と申します。
旧寺号	桂林寺（天正十九年の御朱印状により、慶林寺となり、現在に至っております。）
御開山	大岸舜達大和尚（慶長五年四月遷化）
開基様	月菴珪琳尼（げったんけいりんに） 高城下野守胤吉公之室（永禄八年三月寂）
史跡	月菴珪琳尼の墓所（昭和四十一年松戸市指定） 野馬奉行、綿貫夏右衛門の墓所
有形文化財	天正十二年の墨書銘のある太鼓（三十㎝）非公開

平成二十四年八月二十日

熊谷穰重　奉納　三十世代

本堂

本堂の右手前にある七福神と説明板


松戸史跡七福神、寿老尊
寿老尊　中国の老子の化身ともいわれ、長寿を授ける福
神である。頭が長く短身の老人で、人の長寿を記した巻
物をつけた杖と団扇を持ち、長寿を司る神使といわれる
鹿を連れている。この寿老尊と福禄寿は同体異名という
説もあり、寿老尊を除き吉祥天を入れる例もある。
当慶林寺は、禅宗・曹洞宗の寺で創建は永禄８(1565)
年である。寺の裏手の墓地には、中世の豪族高城胤吉の
妻桂林尼の墓（松戸市指定史跡）と、江戸時代の小金牧
の野馬奉行綿貫夏右衛門の墓がある。
年 11月

これが小金城主高城胤辰の母、桂林尼の墓

市史跡　珪琳尼の墓所

月菴珪琳尼は、小金大谷口城を築いた高城胤吉の妻で十三代千葉介昌胤の妹にあたり胤吉の死後（永禄八年一五六五年二月十二日）剃髪して月菴珪琳尼と称し、鹿島神霊の辺に菴を結んだ、そして胤吉の没した翌月の三月十二日に永眠した。その子従五位下下野守小金城主胤辰は、珪琳尼追福のために同所に慶（桂）林寺を建立した。

なお、現在ある月菴珪琳尼の墓石は享保十五年（一七二〇年）に子孫といわれる高城清右ェ門が建てたもので、その銘に「胤辰の妻」とあるは誤りである。

昭和四十一年五月十七日指定

松戸市教育委員会

これは小金牧の野馬奉行であった綿貫夏右衛門の墓所

参考ホームページ

http://jyokakuzukan.la.coocan.jp/013chiba/087kogane/kogane.html

http://otakeya.in.coocan.jp/info01/koganeooyaguti.htm

http://massneko.hatenablog.com/entry/2014/06/26/060000

http://massneko.hatenablog.com/entry/2014/06/27/060000

https://mrs.living.jp/kashiwa/event_leisure/reporter/3506491

https://blog.goo.ne.jp/sztimes/e/15c938ab18f606323581998f6ee96e04

http://kahoo0516.blog.fc2.com/blog-entry-37.html

流山市
クリエイトエス・ディー
大金平署
市立図書館分館
小金北小
大金平
大金平4
大谷口歴史公園
小金城趾駅
横須賀中央公園
大倉記念病院
おっ母さん食品館
北小金駅
小金高
小金中
アコレ